

第91回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成16年10月1日(金)13:30～16:30

場所：JR東海品川ビル会議室

出席者：委員長 大崎（東京大）

副委員長 北野（JR東海）

委員 小豆澤（神戸大）、海老原（武蔵工業大）、荻田（JST）、

山根（産総研、代理西田）、渡辺（FDK）、楡井（長野高専）、古関（東京大）

幹事 水野（信州大）、村井（鉄道総研）

幹事補佐 真田（大阪府立大）、鳥居（武蔵工業大）

提出資料

- 91-1 第90回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
- 91-2 リニアドライブ技術委員会名簿（鳥居幹事補佐）
- 91-3 第74回産業応用部門研究調査運営委員会議事録（案）（大崎委員長）
- 91-4 論文幹事の仕事（大崎委員長）
- 91-5 上級会員制度のご案内（大崎委員長）
- 91-6 リニアドライブ研究会（山根委員）
- 91-7 リニアドライブ・半導体電力変換研究会@諏訪12月（村井幹事）
- 91-8 平成16・17年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 91-9 平成17年電気学会全国大会シンポジウム（案）提案用紙（北野副委員長）
- 91-10 The Second Announcement and Call for Papers LDIA2005 Kobe-Awaji（小豆澤委員）
- 91-11 第5回産業用リニアドライブ国際シンポジウム(LDIA2005)の準備状況について（小豆澤委員）
- 91-12 LD技術委員会傘下の各委員会の資料提出スケジュール（案）（真田幹事補佐）
- 91-13 平成17年度活動計画 第一次案（大崎委員長）
- 91-14 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会解散報告書（案）（楡井委員）
- 91-15 産業用リニアモータの特性測定法と評価方法調査専門委員会解散報告書（案）（水野幹事）
- 91-16 産業用リニア駆動システムの要素技術評価と応用展開調査専門委員会設置趣意書（案）（鳥居幹事補佐）
- 91-17 医用アクチュエーション技術に関する協同研究委員会設置趣意書（案）（山根委員）
- 91-18 医用電磁駆動システム産業振興のための協同研究委員会（ECD）活動報告（山根委員）
- 91-19 産業用リニアモータの特性測定法と評価方法調査専門委員会（MEL）活動報告（水野幹事）
- 91-20 多自由度モータとその要素技術調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 91-21 リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会（LMD）活動報告（楡井委員）
- 91-22 磁気支持応用機器におけるダイナミクス調査専門委員会（MLV）活動報告（村井幹事）
- 91-23 超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会（SLD）活動報告（北野副委員長）
- 91-24 第7回産業用リニアモータの特性測定法と評価方法調査専門委員会議事録（水野幹事）
- 91-25 第8回産業用リニアモータの特性測定法と評価方法調査専門委員会議事録（水野幹事）
- 91-26 第2回多自由度モータとその要素技術調査専門委員会議事録（矢野委員）
- 91-27 第13回リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会議事録（楡井委員）
- 91-28 第14回リニア電磁駆動装置解析手法の体系化調査専門委員会議事録（楡井委員）
- 91-29 第7回超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会議事録（北野副委員長）

議事

議事に先立ち、部門優秀論文発表賞の贈呈が行われた。

信越化学 横山

1 議事録確認

資料91-1を用いて議事録確認を行い、承認された。

2 報告事項

2.1 資料91-2を用いて、委員会名簿の確認を行った。古関委員が、今回より論文幹事として参加するこ

とが確認された。

- 2.2 資料 91-3 から 91-5 を用いて、大崎委員長より、D 部門研究調査運営委員会の報告があった。論文幹事の技術委員会への出席についての経緯が説明され、関連して、古関委員より、新しい論文査読システムと論文幹事の仕事についての説明があった。論文誌への投稿者には査読がまわる可能性がある。現在の論文委員はとりあえずは存続することになる。これらは学会全体の規定とは若干異なる体制なので、当分は読み替えで対応する。産業応用フォーラムの推進についての報告があり、人工心臓フォーラムについての協賛の報告があった。関連して、西田氏よりフォーラムの実施概要の報告があった。技術報告書の新しい引用転載許諾願フォーマットを現在作成中であること、上級会員制度についての紹介があった。
- 2.3 資料 91-6 を用いて、渡辺委員より、11/11,12 実施予定のリニアドライブ研究会についての紹介があった。発表は 17 件で、産総研臨海副都心センターにて開催される。近辺で懇親会も開催する予定なので、積極的に参加して欲しいとの呼びかけがあった。
- 2.4 資料 91-7 を用いて、村井幹事より、12/16,17 実施予定のリニアドライブ/半導体電力変換合同研究会についての紹介があった。10/8 が申し込み締切で、発表数の目標は 25 件である。会場は諏訪東京理科大学、懇親会は下諏訪温泉を予定している。
- 2.5 資料 91-8 を用いて、平成 16・17 年度各委員会の予定を確認し、以下の修正があった。
 - (1) ISEM2005, JAPMED の開催期日をそれぞれ 9/12-14、9/17-21 に修正
 - (2) LMD 委員会：11/9 の開催予定を 11/30 に変更
 - (3) SPRTS2005(Ship Propulsion and Railway Traction Systems)の開催予定を追加11/5 の開催が重なっている SLD 委員会と MLV 委員会については、合同で開催する方向で、委員長間で調整することとした。
- 2.6 資料 91-9 を用いて、北野副委員長より、H17 全国大会シンポジウム提案についての説明があった。ビデオ等を上映すると良いとの意見があった。
- 2.7 資料 91-10 及び 91-11 を用いて、小豆澤委員より、LDIA2005 の準備進行状況についての説明があった。2nd Announcement を印刷、発行済みであり、各所に配布中である。9/13 に実行委員会を実施し、開催場所を見学、確定した。参加費は論文締切以前は 40,000 円、以後は 50,000 円、学生は 10,000 円とし、懇親会参加費は 5,000 円、論文集は 20,000 円で販売することとした。見学会の企画の現状についての報告があった。論文は 4 頁、投稿希望は 6 頁とする。関連して、selected papers 掲載料の補助についての議論が行われた。
- 2.8 資料 91-12 を用いて、真田幹事補佐より、資料提出スケジュールについての確認が行われた。
- 2.9 資料 91-13 を用いて、大崎委員長より、提出した来年度活動計画の 1 次案についての説明があった。産業応用フォーラムは、今年度中に旧 SEL 委員会で実施予定である。来年度は新規出版技術報告書を基に実施する予定であり、MDD 委員会が行う予定である。また、H18 年度電磁力シンポについて、LD 技委の全面的な支援のもと、関西地区・小豆澤委員長体制で実施することが決定された。その他、研究会の開催等、決まり次第委員長に連絡することとした。

3 審議事項

- 3.1 資料 91-14 を用いて、楡井委員より、H17 年 3 月解散予定の LMD 委解散報告書案が朗読され、審議が行われた。特に 3 年間の調査としたことに対する成果として、「応用面からみた」という報告書ではアピールに欠けるとの指摘があり、調査報告書の目次に反映するように修正し、次回 2 次案を審議することとした。
- 3.2 資料 91-15 を用いて、水野幹事より、H17 年 3 月解散予定の MEL 委解散報告書案が朗読され、審議が行われた。特にリニアアクチュエータについて、特性についての把握・定義がしっかりしていないために齟齬を生じている場合が多いので、変遷をしっかりと報告に記述してほしいとのコメントがあった。新委員会との関連を含めて修正し、次回 2 次案を審議することとした。
- 3.3 資料 91-16 を用いて、鳥居幹事補佐より、H17 年 4 月設置予定の新 MEL 委設置趣意書案が朗読され、審議が行われた。評価を行うのか、評価方法を調査するのか、が混乱しているとの指摘があり、関連して、委員会名称を「要素技術評価と応用展開」から「要素技術」に変更して調査内容を絞った方が良いとのコメントがあった。また、要素技術の内容を明確に記述し、検討事項や効果もそれに従って修正するべきだとの意見があった。持ち帰って修正し、次回 2 次案を審議することとした。
- 3.4 資料 91-17 を用いて、西田氏より、H17 年 4 月設置予定の新 ECD 委設置趣意書案が朗読され、審

議が行われた。委員は基本的に公募もすることが確認され、新委員についてのコメントがあった。予算の項目が必要との指摘があった。調査専門委員会として設置したい意向もあるとの説明があり、これに対して、会員比率 80%以上が必要である、他分野の委員が多いと調査専門委員会では活動しにくいかもしれないとの意見があった。また、活動回数をもう少し増やすべきであるとの意見があった。持ち帰って修正し、次回 2 次案を審議することとした。

4 各調査専門委員会活動報告

資料 91-18～91-29 を用いて、各調査専門委員会からの活動報告があった。

以上